

2022年度版
日商簿記3級講座
テキストレジュメ



企画・制作 簿記塾オッジ
〒 862-0924 熊本市中央区帯山 5-18-12
電話 096(382)1228
<http://www.bokijuku.com>

本書の無断複製・無断転載は禁止いたします。本書を使用して
講義・セミナー等を実施する場合には、弊塾宛許諾を求めてく
ださい。

第1章 序章

1-1 簿記とは

簿記特有の用語を理解し、一定のルールを反復練習すれば誰にでもマスターできる技術…それが簿記です。

簿記 ⇒ 企業の経営活動を一定のルールに従って記録・計算・整理する記帳技術のこと

簿記の語源は“book keeping”が訛ったものだとか、“帳簿記録”が短縮されたものといった諸説がありますが、いずれせよ企業の活動を「記録」することに違いはありません。日本で初めて西洋式簿記が紹介されたのは福沢諭吉の「帳合之法（ちょうあいのほう）」という翻訳本であると言われています。

1-2 簿記の目的

1. 一定時点の財政状態を明らかにする → 貸借対照表（後述）
2. 一定期間の経営成績を明らかにする → 損益計算書（後述）
3. 企業活動の歴史的な記録をつける → 仕訳帳（後述）

これらを明確に示すことにより、納税額の計算・信用供与・意思決定等の資料を提供することができる。

1-3 簿記の種類

簿記の種類には下記のように様々な分類方法がある。

1. 記録法による分類 記録法による分類
 - 単式簿記 複式簿記
2. 目的による分類
 - 営利目的簿記 非営利目的簿記
3. 業種による分類
 - ・小売業 → 商業簿記
 - ・製造業 → 工業簿記
 - ・建設業 → 建設業簿記
 - ・銀行業 → 銀行簿記
 - ・農業 → 農業簿記 etc.

1-4 簿記の基本的なルール

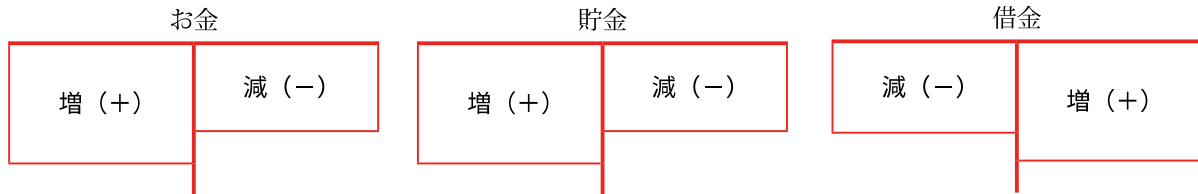
◎ルールその1：勘定という考え方

簿記では勘定と呼ばれる独自のT字型のフォーム（Tフォーム）で記録・計算・整理を行う。Tフォームは下図のように勘定の左側を借方、右側を貸方と呼ぶ。



勘定の使い方は次のように「お金」「貯金」「借金」といった各項目ごとに独立した専用の勘定を設け、それぞれの増減にあわせて記録を行う（※借方・貸方のどちらを「減」「減」にするのかについては一定のルールがあるが、これは後述する）。

この方法なら、お金や貯金が「どのように増減したのか」が一目瞭然になる。このように各勘定の増減で記録を行うのが簿記の基本的な記録方法である。

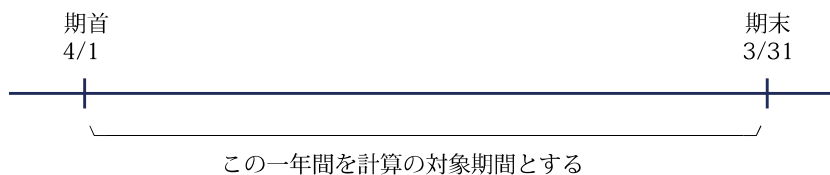


◎ルールその2：会計期間という概念

会計期間とは簿記における計算の対象となる期間のこと。

企業は永年にわたり継続して経営活動を行うこととなるため、簿記ではこの期間を一定の期間に区切って財政状態と経営成績を明らかにする必要がある。

この区切られた一定期間を^{かいけいきかん}会計期間と呼び、期間の初めを^{きしゅ}期首、期間の終わりを^{きまつ}期末と呼ぶ（個人商店では1月1日～12月31日、株式会社等の法人企業では一般的に4月1日～3月31日の1年間）。



第2章 資産・負債・資本（純資産）と貸借対照表

2-1 資産・負債・資本（純資産）とは？

- ◎ **資産**^{しさん} … 企業が所有する現金、物品、債権（将来、一定金額の返済やサービスの提供を要求できる権利）
具体的な勘定科目名：現金・預金・商品・備品・建物・売掛金・貸付金 等
- ◎ **負債**^{ふさい} … 企業が負う債務（将来、一定金額の返済やサービスの提供を行わなければならない義務）
具体的な勘定科目名：買掛金・借入金 等
- ◎ **資本（純資産）**^{しほん} … 資産と負債の差額
具体的な勘定科目名：資本金・利益剰余金

2-2 資産・負債・資本の関係

上記の資産・負債・資本の関係を勘定で表現すると次図のようになる。

資産	負債
	資本

また、資産・負債・資本の関係はそれぞれ次の等式で表すことができる。

- ・ 資産－負債＝資本 ⇒ これを**資本等式**^{しほんとうしき}と呼ぶ
- ・ 資産＝負債＋資本 ⇒ これを**貸借対照表等式**^{たいしやくたいしょうひょうとうしき}と呼ぶ

なお、等式を暗記する必要はない。資産・負債・資本の関係は上記の勘定図でイメージできるようにしよう！

2-3 財産法による利益の算定

期末資本－期首資本＝当期純利益（または当期純損失）

期首の資産・負債・資本の状態

資産 1,000 円	負債 600 円
	資本 400 円

期末の資産・負債・資本の状態

資産 1,500 円	負債 1,000 円
	資本 500 円

資本（純資産）が 100 円増えている！
100 円の増加分＝儲け＝利益

資本（純資産）とは、言うならば**自分の元手**のことです。
 商売の基本は「いかに元手を増やすか」ということなので、元手が増えていれば儲け（利益）になるし、逆に元手が減っていれば損失になります。
 言葉だけ聞くと難しそうに聞こえるのですが、やっていることは実に単純なことなのです。

2-4 貸借対照表 (Balance Sheet : B/S)

企業の一定時点の財政状態（資産・負債・純資産の状態）を明らかにする計算表。

下図の期首と期末の貸借対照表を比べてみてください。期首では「これから商売を始めるゾ！」というスタート地点ですから当期の純利益や純損失はありません。一方、期末は一年間の営業が終わった時点ですから当期の純利益（または純損失）がでてきます。

したがって、期末の貸借対照表では資本（純資産）の中身を期首に持っていた資本金と、純資産の増加分である当期純利益（または当期純損失）に分けて表示することにします。

ちなみに今回学習している貸借対照表は個人商店を対象とした最もシンプルな貸借対照表です。日商簿記3級では最終的に株式会社を対象とした貸借対照表を覚えてもらうこととなりますが、これについては後ほど学習します。

熊本商店 期首貸借対照表 令和〇年1月1日

資産	金額	負債・資本	金額
現金	600,000	借入金	300,000
商品	500,000	資本金	1,000,000
備品	200,000		
	1,300,000		1,300,000

期首貸借対照表

期首資産 1,300,000	期首負債 300,000
	期首純資産 1,000,000

熊本商店 期末貸借対照表 令和〇年12月31日

資産	金額	負債・資本	金額
現金	500,000	借入金	200,000
売掛金	200,000	買掛金	250,000
商品	600,000	資本金	1,000,000
備品	200,000	当期純利益	50,000
	1,500,000		1,500,000

期末貸借対照表

期末資産 1,500,000	期末負債 450,000	} 期末純資産 1,050,000
	期首資本金 1,000,000	
	当期純利益 50,000	

【参考】株式会社の貸借対照表

期首貸借対照表

期首資産 1,400,000	期首負債 300,000
	期首資本金 1,000,000
	期首利益剰余金 100,000

熊本株式会社 期首貸借対照表 令和〇年4月1日

資産	金額	負債・資本	金額
現金	700,000	借入金	300,000
商品	500,000	資本金	1,000,000
備品	200,000	利益剰余金	100,000
	1,400,000		1,400,000

期末貸借対照表

期末資産 1,550,000	期末負債 450,000
	期首資本金 1,000,000
	期末利益剰余金 150,000

熊本株式会社 期末貸借対照表 令和〇1年3月31日

資産	金額	負債・資本	金額
現金	550,000	借入金	200,000
売掛金	200,000	買掛金	250,000
商品	600,000	資本金	1,000,000
備品	200,000	利益剰余金	150,000
	1,550,000		1,550,000

第3章 費用・収益と損益計算書

3-1 費用・収益とは？

- ◎ ^{ひよう}費用 … 経営活動によって資本の減少原因となることから
 具体的な勘定科目名：仕入・給料・広告料・通信費・旅費交通費・消耗品費・支払利息・雑費等
- ◎ ^{しゆうえき}収益 … 経営活動によって資本の増加原因となることから
 売上・受取手数料・受取家賃・受取利息等

3-2 費用・収益の関係

^{そんえきほう}損益法による純利益（純損失）の計算

下図の費用・収益の関係を計算式で表したものの。

費用合計	収益合計
当期純利益	

$$\text{収益合計} - \text{費用合計} = \text{当期純利益（純損失）}$$

3-3 資損益計算書（Plofit and Loss statment：P/L）

企業の一定期間の経営成績（費用・収益・当期純利益（または損失））を明らかにする計算表。

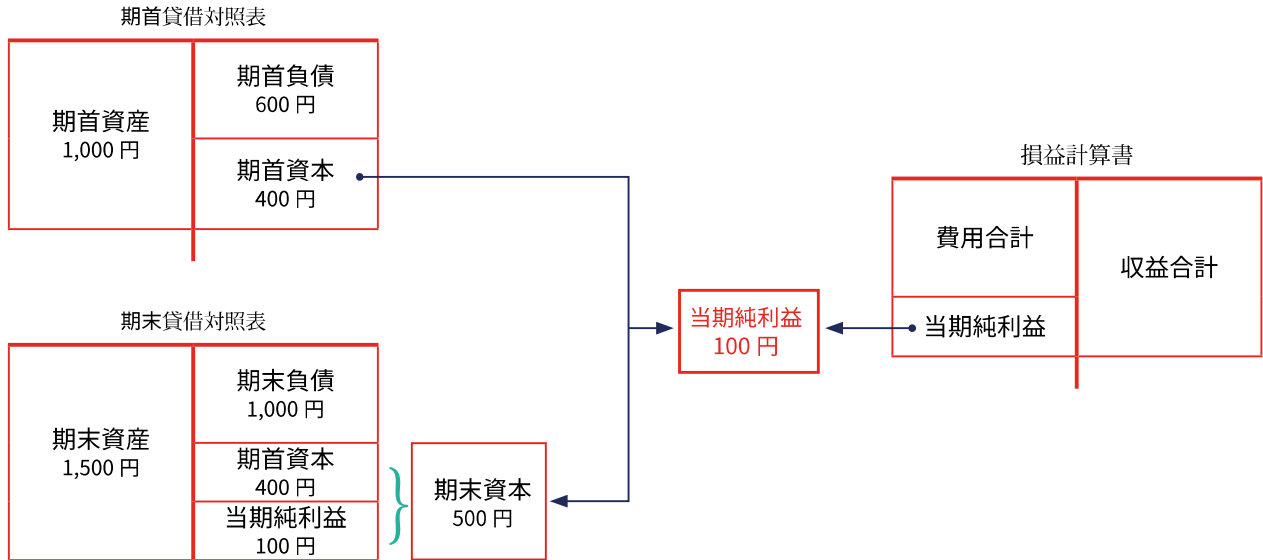
費用	金額	収益	金額
仕入	200,000	売上	320,000
給料	120,000	受取手数料	80,000
支払利息	30,000		
当期純利益	50,000		
	400,000		400,000

3-4 貸借対照表と損益計算書の関係

貸借対照表と損益計算書は下図のように、利益という共通項で結ばれる。

◎ 貸借対照表の役割は期首・期末の財政状態を表示すること。

◎ 損益計算書の役割は利益の発生原因を表示すること。



【確認問題】

次の () にあてはまる金額を計算しなさい。ただし、純損失にはマイナス (-) の符号をつけること。

	期首			期末			収益	費用	純利益 または 純損失
	資産	負債	資本	資産	負債	資本			
(1)	300,000	100,000	()	()	50,000	()	()	70,000	30,000
(2)	500,000	()	150,000	400,000	280,000	()	270,000	()	()

第4章 簿記上の取引，仕訳と転記

4-1 簿記上の取引とは？

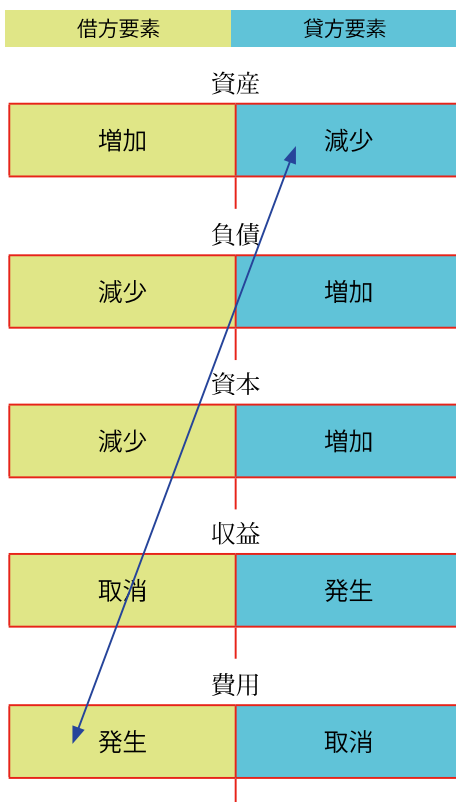
簿記上の取引とは資産・負債・資本に増減変化をもたらす取引のこと。

- ①備品を現金で購入した
→ 備品（資産）の増加と現金（資産）が減少 … 簿記上の取引に該当
- ②火災により商品が消失した
→ 仕入（費用）の取消と火災損失（費用）の発生 … 簿記上の取引に該当
- ③得意先から商品の注文を受けた
→ 注文を受けただけなので資産・負債・純資産のいずれも増減しない … 簿記上の取引に該当しない
- ④現金を出資して開業した
→ 現金（資産）の増加と資本金（純資産）の増加 … 簿記上の取引に該当
- ⑤現金が紛失した
→ 現金（資産）の減少と盗難損失（費用）の発生 … 簿記上の取引に該当
- ⑥給料 200,000 円の約束で従業員を採用した
→ 採用しただけなので資産・負債・純資産のいずれも増減しない … 簿記上の取引に該当しない

4-2 取引の要素と関係

簿記上の取引は資産・負債・純資産の増減と収益・費用の発生という取引要素の組み合わせで成り立っており、借方の要素（資産の増加・負債の減少・純資産の減少・費用の発生・収益の取り消し）と貸方の要素（資産の減少・負債の増加・純資産の増加・費用の取り消し・収益の発生）がそれぞれ一個以上組み合わせられて一つの取引となる。

例えば「給料を現金で支払った。」という取引の場合は、下図のような借方要素（給料という費用の発生）と貸方要素（現金という資産の減少）の組み合わせとなる。



【簿記上の取引の例】

左図と見比べながら、「どの借方要素」と「どの貸方要素」の組み合わせなのかを確認してみよう。

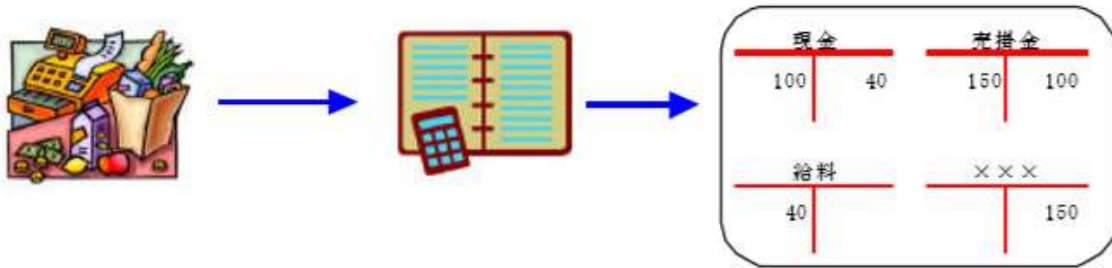
- ・備品 ¥500,000 を現金で購入した。
備品（資産）の増加と現金（資産）の減少
- ・給料 ¥200,000 を現金で払った。
給料（費用）の発生と現金（資産）の減少
- ・商品 ¥35,000 を掛けで購入した。
仕入（費用）の発生と買掛金（負債）の増加
- ・買掛金 ¥150,000 を現金で支払った。
買掛金（負債）の減少と現金（資産）の減少

4-3 仕訳…取引発生の（歴史的）記録方法

簿記上の取引が発生したら、それぞれの取引について、勘定に記入する前に前ページの借方要素と貸方要素の組み合わせに基づき「どの勘定の借方にいくらを記入し、どの勘定の貸方にいくらを記入するのか」を仕訳帳という帳簿に記録しなければならない。

この記録（指示）のことを仕訳^{しわけ}という。

- ①取引が発生したら ②仕訳帳に仕訳を記録して ③仕訳に基づいて指定の勘定に記入する



仕訳は「どの勘定の借方または貸方に金額を記入するのか」を指示する、一種の指示命令書のようなものである。例えば下記仕訳例①のように現金勘定の借方側に¥1,000,000、資本金勘定の貸方側に¥1,000,000と記入したければ、仕訳帳の借方側に「現金 1,000,000」、貸方側に「資本金 1,000,000」と記録する。

これにより「現金勘定の借方に¥1,000,000、資本金勘定の貸方側に¥1,000,000と記入しなさい」という指示になる。

① 現金¥1,000,000を元入れして営業を開始した。

借方		貸方	
現金	1,000,000	資本金	1,000,000

現金	
1,000,000	

現金勘定の借方側に¥1,000,000と記入したいので仕訳の借方側に「現金 1,000,000」と記入する。

② 商品¥200,000を現金で仕入れた。

借方		貸方	
仕入	200,000	現金	200,000

資本金	
	1,000,000

資本金勘定の貸方側に¥1,000,000と記入したいので仕訳の借方側に「資本金 1,000,000」と記入する。

③ 上記商品を得意先A商店へ¥230,000で売り渡し、代金は掛けとした。

借方		貸方	
売掛金	230,000	売上	230,000

④ 売掛金の一部¥100,000を現金にて回収した。

借方		貸方	
現金	100,000	売掛金	100,000

⑤ 銀行より現金¥500,000を借り入れた。

借方		貸方	
現金	500,000	借入金	500,000

⑥ 借入金のうち¥300,000を利息¥10,000とともに現金で支払った。

借方		貸方	
借入金	300,000	現金	310,000
支払利息	10,000		

4-4 転記

仕訳で記録した取引を各勘定口座へ書き移すことを転記という。

勘定口座とは各勘定科目（現金・商品等）ごとに設けられるT字型のフォームのことで、そうかんじょうもとちよう総勘定元帳（後述）を学習上、簡略化したもの。

下記例題のように、転記は仕訳に基いて次のように行う。

◎ 1月5日の取引と仕訳

銀行から現金¥120,000を借り入れた。

借方		貸方	
現金	120,000	借入金	120,000

借方の「現金 120,000」は「現金勘定の借方側に 120,000 と記入しなさい」という意味（指示）なので、次図のように現金勘定の借方側に日付と 120,000 を記入する。

貸方の「借入金 120,000」は「借入金勘定の貸方側に 120,000 と記入しなさい」という意味なので、先と同様に借入金勘定の貸方側に日付と 120,000 を記入する。

現金	借入金
1/5 120,000	1/5 120,000

◎ 1月8日の取引と仕訳

商品¥50,000を仕入れ、代金は現金で支払った。

借方		貸方	
仕入	50,000	現金	50,000

現金	借入金	仕入
1/5 120,000 1/8 50,000	1/5 120,000	1/8 50,000

なお、転記の際は「日付」と「金額」だけでなく、下記例のように仕訳の「相手勘定科目名」も記入する。

◎ 2月3日の取引と仕訳

現金¥800,000と備品¥200,000を追加元入れした。

借方		貸方	
現金	800,000	資本金	1,000,000
備品	200,000		

現金	資本金
2/3 資本金 800,000	2/3 諸口 1,000,000
備品	
2/3 資本金 200,000	

※資本金の相手勘定科目は「現金」と「備品」の二つになる。
このように相手勘定科目が二つ以上ある場合は諸口しよくちと書く。

第5章 試算表

5-1 試算表とは？

転記記入が正しく行われたかどうかを、^{たいしゃくへいきん}貸借平均の原理を利用して検算する計算表を^{しさんひょう}試算表と呼ぶ。

◎ 貸借平均の原理

どのような取引も借方と貸方の金額バランスを常に等しくなるように記録するのが複式簿記のルールである。したがって、仕訳の借方側の合計金額と貸方側の合計金額は必ず一致する。

当然、各勘定口座に転記された数字についても、この仕訳を元に転記記入されているはずなので、転記を間違っていないければ下図のように全ての勘定口座の借方の合計金額と貸方の合計金額は一致する。

このことを「貸借平均の原理」と呼び、複式簿記の基本となっている考え方である。

現金		
1/5 120,000 2/3 800,000	1/8 50,000 1/25 40,000	
売掛金		
1/10 42,000	1/10 30,000	
備品		
2/3 200,000		
借入金		
	1/5 120,000	
資本金		
	2/3 1,000,000	
売上		
	1/10 12,000	
仕入		
1/8 50,000		
給料		
1/25 40,000		
借方の合計金額 1,252,000	← 一致 →	貸方の合計金額 1,252,000

5-2 試算表の種類

試算表には合計試算表、残高試算表、合計残高試算表の三種類があり、作成する日時によって日計表、週計表、月計表とも呼んでいる。

① 合計試算表

各勘定口座の借方金額の合計と貸方金額の合計が一致しているかどうかで転記の間違えを確認する検算表。

借方	元丁	勘定科目	貸方
1,530,000		現金	425,000
80,000		売掛金	30,000
100,000		備品	
100,000		借入金	500,000
		資本金	1,000,000
		売上	80,000
150,000		仕入	
70,000		給料	
5,000		支払利息	
2,035,000			2,035,000

② 残高試算表

各勘定口座の借方と貸方の差額（残高という）で作成する試算表。

※合計試算表が総額で検算する試算表なのに対して、残高試算表は純額で検算する試算表である。

借方	元丁	勘定科目	貸方
1,105,000		現金	
50,000		売掛金	
100,000		備品	
		借入金	400,000
		資本金	1,000,000
		売上	80,000
150,000		仕入	
70,000		給料	
5,000		支払利息	
1,420,000			1,420,000

③ 合計残高試算表

合計試算表と残高試算表を一つにまとめたもの。

合計残高試算表

令和〇年5月31日

借方		元丁	勘定科目	貸方	
残高	合計			合計	残高
1,105,000	1,530,000		現金	425,000	
50,000	80,000		売掛金	30,000	
100,000	100,000		備品		
	100,000		借入金	500,000	400,000
			資本金	1,000,000	1,000,000
			売上	20,000	20,000
150,000	150,000		仕入		
70,000	70,000		給料		
5,000	5,000		支払利息		
1,420,000	2,035,000			2,035,000	1,420,000